

地震防災セミナー

Vo.01

2025.6月13日(金)

能登地震支援に派遣されて

東地区コミュニティ運営協議会では、東地区防災士連絡部会と協力し、令和7年度地震防災セミナーを開催しました。

今回は、能登半島地震の支援に派遣された、危機管理課の粟津主査を講師に招き、被災地の現状や取り組みについての講話をお願いしました。講話の中で、まず地震について知識を深め、自分たちの命は自分で守る「自助」の大切さ、そして、地域で協力して対応する「共助」の大切さを認識しました。

今後は、まず発災時に自分自身が、そして地域がどの様に対応して行けばいいかを考え、防災訓練にこれらの対策を実際に活用できるようにしなければなりません。

また第2部では、この能登半島地震の体験講話を聴いて、参加者と、地域の防災を考える討論会を行いました。

これからも地震対策、平常時の対策、避難所の対策、要支援者の対策などを、皆さんと一緒に考えていきます。



◎東コミ防災セミナー講演プログラム

第1部 能登半島地震災害の支援に派遣されて

能登半島地震の復旧支援に派遣された、大野城市危機管理課職員の被災地の状況及び発災直後の対応策がどのように行われたのかなどを、体験者の目線で報告を聞きます。

第2部 被災地の体験を基に考える

/////////災害が発生した場合に備える！/////////
能登半島地震の経験談を聞いて、地域で何をすべきかをみんなで考える。

令和 6 年1月1日発生

能登半島の地震災害の支援報告



被災地に入って感じたこと

- ◎死因について、全体の 4 割が倒壊した建物の下敷きになったことなどによる圧死であり、まずは自分の命は、自分で守ることがとても重要であると改めて実感した。
- ◎発生直後の被災地は混乱しており、地域住民同士が助け合う共助が大きな支えであった。平時における地域の備えが災害時に発揮されると確信することが出来た。
- ◎災害関連死を防ぐためには、長期的かつ多種多様なサポートが不可欠である。

活動を通じて見えた課題①

- 比較的古い木造の建物で甚大な被害
(倒壊しなくても家具の転倒などによる被害)
- ライフラインの被害による物資や救助活動の遅れ
(電気・ガス・水道・下水道・幹線道路・通信)
- 水・食料より早く必要になるトイレの問題
- 避難所における高齢化と食事の栄養バランス

活動を通じて見えた課題②

- ◎大規模災害時は、市職員が参集できない可能性がある
(発災後、数日間は避難所に行く事が困難なことがある)
- ◎発災直後は、被害状況の把握が非常に難しい
- ◎指定避難所以外の避難者(車中泊・在宅)の把握が困難
把握することが出来れば、支援要請が可能となる

市からのお願い: 発災直後は、地域の皆さんで助け合って行動して下さい。避難所の情報を対策本部に連絡して下さい。との説明があった。

